

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所としての目標は、誰もが見えるところに貼ってあります。法人の理念は、会議前に全職員で唱和しています。	法人の理念のもとに事業所としての目標をあげ誰もが見えるところに掲示をし、理念の共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、地区の行事に参加(子供歌舞伎の観賞、どんど焼き、運動会へ参加、交流)や、併設しているデイサービスの方などの交流も行っています。また、行事の時には地域の方のボランティアの手伝いもあります	自治会の一員として地区の行事に参加している。事業所の行事には地域の人がボランティアとして参加もしてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人の事業所報告会や、在宅支援センターでのパネル展示などで発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一度の開催の中で出される意見や提案等は職員会議で報告し、取り組めることや改善できることは出来るだけ早く対応するよう努めています。	運営推進会議は活発に行われている様子が記録からうかがえる。内容は職員に報告され改善できるところから対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議等に出席いただき、福祉に関する現状や最新情報などをお話して頂いたり、ご利用者とお茶会等に出席して頂いたりしてご利用者の状況なども把握してもらっています。	運営推進会議や利用者のお茶会などに参加して頂き、情報の共有をしている。市と連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人開催の研修会に参加しています。ご利用者一人ひとりの情報を共有し、話し合いをしながら支援や見守りに努めていますが、時間帯によってはやむを得ず玄関を施錠しています。	職員は法人全体の研修会に参加し、日常的に入居者さんの情報を共有し、話し合いながらあまり口を出さずに見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人開催の研修会に参加しています。接遇の観点からも、言葉遣いから気を付けようと職員会議で意識付けをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人開催の研修に参加しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に細かく説明しています。不明な点や疑問な点があるときは、その都度伺い説明するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	2か月に一度の家族会で出された意見や要望等を家族会長さんから伺い、次の回までに回答できるように努めています。また日々の中でも意見や要望等は伺っています。	2か月に一度の家族会は、出席者が多く、入居者ひとりに複数の親族が出席されている。会長さんから話し合いの内容の報告も受けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に数回ある個人面談の中で、職員一人ひとりから意見や提案を聞いています。それを運営者との面談の際に伝えています。また、次年度の予算ヒアリングの際にも、次年度に向けての要望等を運営者に伝えています。	個人相談の中で職員一人ひとりの意見、要望を聞いている。日常的に管理者は現場の声に耳を傾ける努力もしている。内容により、上層部に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に数回ある個人面談の中で職員一人ひとりに、日頃の苦労や頑張り等に対し感謝の言葉を伝えるようにしています。また、働きやすい職場環境づくりを心がけています。処遇改善については、運営者との面談時や日々の中でも適宜相談しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	特に法人外の研修を受ける機会の確保に努めています。自主的に研修を希望するほかに、必要と思う研修を勧め自己研鑽につなげています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	年に数回ある四法人(依田窪福祉会、恵仁福祉協会、大樹会)合同の研修会、交流会に参加しています。また、地域のグループホームの会(フレンド会)に所属し相互評価をしあう事で日々の業務等の見直しなどに役立っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所時に説明会を行っています。また、困っている事や不安な事、要望等があった時はその都度伺うようにしています。日頃の何気ないおしゃべりから、何でも話せる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	常に御家族等の困っている事や不安な事、要望等を伺い、安心していただけたり満足して頂けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人の希望や御家族の意向を伺いながら見極め、法人内の他事業所との連携や地域資源を利用したサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共に暮らしている中で、野菜の皮むきや刻み、食器洗いや拭く事、洗濯物干しや畳み等、出来ることは行って頂いています。また、畑作りや漬物作りなどは教えて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	自由な面会や外出・外泊、衣替えや寝具類の調節など、御家族の役割を残しながら、御家族との接点を大切にしています。また、2か月に一度、御本人の様子を書面にて御家族にお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自由な面会の中で、顔なじみの方々には気軽に会いに来ていただけるよう努めています。また、併設されているデイサービスや特養に親しい方が居て会いに行ったり来てくれたり、馴染みの関係が保たれるようにしています。	併設のデイサービス、特養の利用者と行き来をしたり、同じ敷地内の診療所に通う受診者さんも受診のついでに顔を見せ、馴染みの人との関係も継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の良好な関係は見守るようにしています。孤立しているような時は声掛けをし、仲立ちするよう努めています。また、体操やゲーム等を取り入れ皆で楽しめるような時間も作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	併設の特養に入所していることが多いので、散歩がてら会いに行ったりおしゃべりしています。御家族ともお行き会いすれば近況など伺ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中でご本人が何をしたいのか時々伺ってみたり、表情や言葉などから思いや意向を推測、把握するようにしています。	日常の行動、言葉、表情からくみ取り、家族の願いを受け止め、介護計画につなげる努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族から生活歴やなじみの暮らし方等を聞き取っています。また、前ケアマネジャーからも情報提供してもらい、情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者一人ひとりの個人記録を執り、全職員で共有し現状の把握に努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成者を中心に情報の収集を行い、全職員で情報を共有し、介護計画の作成に役立てています。また、ご家族の意向も取り入れています。	介護計画作成者が中心になり、情報の収集が行われ、申し送り、カンファレンスから情報を共有し、入居者家族の意向も取り入れ、計画を作成し、実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	見直しが必要な時はケアカンファレンスを細目に行い情報を共有し、実践→記録→見直しをしていくよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	出来るだけご利用者やご家族のニーズに対応するよう努めていますが、まだまだ柔軟な支援やサービスの多機能化とは言えない所を、法人内の他事業所との連携の中で補っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	まだまだ十分な地域資源の把握とは言えないが、施設の中だけでなく地域の中の一員としての暮らし方を、柔軟な発想の中で考えるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医の選定はご本人やご家族の希望ですが、特に希望がない場合には、連携の取りやすい併設の診療所に主治医になってもらっています。	本人、家族の希望する医療機関に受診できるよう支援している。特に希望がない場合は、併設している診療所を利用している。受診の際は、家族に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションみまきと契約し、週一回の訪問時、バイタル測定など健康管理をしてもらっています。また特変時は24時間いつでも連絡し相談できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご家族と共に医療機関への情報提供に努めます。入院中も様子を伺いに行ったり、退院が決まれば退院前カンファレンスに出席し、入院中の情報収集を行い、退院後の生活が不安なく送れるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族への連携をより密に取り、ご様子をお伝えしています。また、診療所や訪問看護と連携し、指示を頂きながら出来る限りの対応に努めます。併せて、診療所からご家族に病状説明をもらっています。	入浴時、家族に説明をする。状態の変化の都度、家族、診療所、訪看と連携し、本人、家族の意向を把握し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年に一度ほど行われる施設内の救急法の研修に参加し、自己研鑽に努め、急変や事故発生時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、法人全体の避難訓練に参加しています。災害もいろいろな場面を想定したり、発生時刻も昼間だけでなく夜間想定で行ったりしています。また、地域の消防団の方にも避難誘導をして頂き、把握してもらっています。	法人全体で年2回(昼間・夜間)、火災・地震を想定し、地域の消防団の協力を得て、避難訓練を行っている。	自然災害の水害、土砂災害を想定し、確実な避難誘導ができるよう、職員と入居者さんが一緒に訓練を実施することを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	他の人に聞こえたら嫌な事や恥ずかしいことは、ご本人にのみ聞こえるような声でそつと声かけるようにしています。また、プライドを傷つけないような声掛けに努めています。	職員は入居者さんと向き合って寄り添うように一人ひとりと視線を合わせ、声の大きさ、話し方など、日々努力してる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の中で、ご利用者の希望をうかがうようにしていきます。そして、ご利用者が自由に自己表現できるような人的環境であるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者全員で活動する時もありますが、一人ひとりの生活のペースに合わせ、個別にケアすることも大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服選びを一緒にしたり、髪をとかしたり髭を剃ったりすることをお手伝いしています。また、入浴後にヘアクリームをつける方もあり、ご自分でつけられるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮むきや切ったりと下ごしらえをしてもらっています。メニューを伝えると、野菜の切り方を変えたりして工夫して下さいます。また、食後は食器洗いをしたり、食器拭きもしてもらっています。	入居者さんは自分から参加できる場所で、食事作り、食器の準備、片付けに参加している。落ち着いた雰囲気ですべてを楽しんでいる様子が伺えた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎月1回体重測定を行い、体重の増減をチェックしています。また、管理栄養士から適宜アドバイスをもらっています。10時、15時のお茶時に水分補給し確保しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず声を掛け、口をゆすいだり歯磨きをしてもらっています。自歯のある方には、希望によって訪問歯科診療を受けることが出来ます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握した対応に努めています。また、時間を決めて誘導したりもしています。	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、個人の習慣を尊重し、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	管理栄養士に相談し、便秘に効く食品を教してもらい、それらを利用した食事提供に努めています。散歩や体操など運動する事にも力を入れています。それでも便秘であれば、訪問看護師に相談し対応してもらったり、内服薬を処方してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回を目安に入浴してもらっています。デイサービスの浴室を使用する為、入浴時間は14時～15時半と限られていますが、その時間の中でもゆっくりとリラックスしてもらえよう努めています。	デイサービスの浴室を併用するため、入浴時間は固定しているが、個人の希望には対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ベットの方が居たり布団の方が居たりと、その方の生活習慣に合わせています。また、室温に注意したり、気温の変化に応じて寝具等で調節したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	月に一度処方された際、薬局から届く薬の説明書を目を通すようにしています。服薬はそれぞれ名前を確認の上食後に開封し、ご本人の手のひらに薬を出して服用してもらっています。新たに処方された薬については副作用に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	女性の方々には、妻として母として日々行っていたであろう家事を担ってもらっています。畑の作り方などもお聞きしています。気分転換には散歩をしたり、風船バレーをしたりして発散してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族との外泊や外出は自由の行ってもらっています。地域のどんど焼きや観劇、小学校や保育園の運動会観戦など、地域の方から声をかけて頂き、会場での移動の際は地域の方々にも協力してもらっています。家族といちご狩りに出かけた時、大好きなお寿司も食べに行きます。	外出の個々の希望は少ない。日々の生活の中から入居者の希望を把握し、家族や地域の協力を得ながら、外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持については、ご自分でどこかにしまい込まれて見つからず、「盗られた」とトラブルの原因にもなりかねないので所持して頂かないようにしています。また、お金を使う機会も少なくなりました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族からの電話が時々あり、ご本人にも出て頂いています。自ら電話をしたり、手紙を書いたりされる方は今はおられません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設の構造上難しい所はありますが、殺風景にならないよう玄関などに季節の花々を飾ったり、定期的に写真なども入れ替えています。	共同空間は畳のスペースやゆったりとしたソファがある。ソファから外の風景も眺められ、居心地の良い工夫がされている。訪問時は雛人形が飾られ、季節を感じさせる安らぎの場となっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事やお茶の際は自席が決まっているダイニングですが、それ以外は思い思いの席で、読書をしたり気の合った仲間とパズルや塗り絵など楽しんでもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	契約時に、自宅で使い慣れたものや衣類の他飾っておきたいものがあれば持参して頂くよう、ご自宅の延長とご家族にも思っているようにとお話しています。	入居者さんは家族と相談し、生活しやすい環境を作り出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はところどころに手すりを取り付けてあります。また、伝い歩きが出来るように家具の配置を考えたり、立ち上がりが容易なように座面が固めなソファを購入したりしました。		